

令和4年度事業報告書概要（竹芝客船ターミナル外1施設）

指定管理者：東京港埠頭・テレポートセンターグループ

1 管理状況
○ 適切な管理の履行
<ul style="list-style-type: none">・ 人員配置 「人員配置計画」に基づき人員を配置。・ 人材育成の取組 コンプライアンス研修や情報セキュリティ研修、ハラスメント研修などに参加した。また、上級救命技能認定証も取得している。・ 施設の使用許可 竹芝客船ターミナル施設等の管理運営基準に基づき、審査内容を審査し適正に許可を行った。・ 施設の維持補修・修繕 事業費を調整し、緊急対応等経費として確保されている予算を上回る額を東京都と協議の上で執行し、ターミナルの維持管理を実施した。
○ 安全性の確保
<ul style="list-style-type: none">・ 防災・防犯への配慮 竹芝エリアを管轄する防災センターと、内線電話による連絡体制を確立するなど災害時に備え、事件・事故発生時には、必要に応じて救急要請をしたほか、関係者に速やかに報告を行っている。 また、愛宕警察署や海上保安部、定期船運行事業者と、災害時の避難・誘導などの情報交換を行い防災・防犯に備えている。・ 緊急時対策・事故防止 スタッフによる自主チェック及び専門業者（警備・設備）によるチェックを毎日実施している。点検の際は、竹芝客船ターミナル指定管理者の点検表により、改善状況の確認や不具合箇所の早期発見、路上生活者確認を行い、事故防止と施設保全に努めた。 また、公園管理部門との施設チェック（年2回）や安全パトロールを実施している。・ 事故等への対応<ul style="list-style-type: none">①上級救命技能認定者の配置等（再掲）②救急用品の整備とAED器具の点検等
○ 法令等の遵守
<ul style="list-style-type: none">・ 個人情報保護・情報公開の取組 社内規定に基づき処理。・ 各種法令等の順守 行政代行者としての必要な法令順守につながる研修等を受講。・ 情報事故への対応 ネットワークシステムのクラウド化で情報セキュリティ対策を強化しているほか、社内規程等に基づき適正に処理。

2 事業効果

○ 事業の取組

・ 自主事業の企画、実施、成果

3年ぶりの開催となった「竹芝夏ふえす&ミュージックフェス」では、3Fのデッキと新規にポートシティを会場とした他、乗客が多い納涼船の開催時期との調整を行い開催した。実施に当たっては新規に盆踊りを企画実施し、一体感を創出した。また、島しょ振興として島BARを設置した。

移動式キッチンカーを中央広場に配置する「ネオ屋台村」では、3年ぶりにテーブルと椅子を設置して開催したところ、アンケートにおいてイベントを今後継続して開催することを希望する声があった。

・ 利用者サービス向上に向けた取組

3年ぶりとなる納涼船事業について、新規に浴衣レンタルショップの場所を提供し、運行事業者への協力を行った。

これまでは平日のみ窓口対応をしていたところ、新たに休日においても撮影業務など窓口業務を始めたことで、利用者サービスの向上となった。

○ 利用の状況

乗降客数 614,040人

撮影合計 615件

○ 利用者の反応

・ アンケートの実施

「竹芝夏ふえす&ミュージックフェス」のアンケートにおいて、施設整備（清掃面）の状況が前回（2019年）のアンケートが56%の満足度だったところ今回のアンケートは99%の満足度で43%向上した。

○ 行政目的の達成

・ 都及び関係機関等との連携

東京都実施のエスカレーター工事について、安全対策等の進捗や原状回復の確認、維持管理運営の策定を行った。また、東京都の指示当日に清掃や動作確認、管理体制の構築を行い迅速かつ柔軟に稼働を開始した。

竹芝地区まちづくり協議会と地域の賑わい創出や防災への取組の他、運行事業者との島しょPRや愛宕警察署との防犯啓発、港区等との連携を図っている。

・ 都の実施策への協力

東京都産業労働局事業であるTokyo Tokyoサインの掲示について、運行事業者との調整や設置調整を行った。都知事への報告事案となり、庁内でもよい連携の取り組み事例となった。

・ 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた自主的な取組

令和4年度は新規に非接触型のディスペンサーを設置し、利用が増加してきた1か所にプッシュ式の消毒液を増設し、タッチレスに取り組み感染対策の強化を図った。

3 収支状況（単位：千円）

項目		金額（税込）
収 入	指定管理料	313,670
支 出	管理運営費	298,501
収支差		15,169